

福岡市立歴史資料館研究報告総目次

第一集 一九七七年三月

腕輪二題……………三 島 格

考古学・柏屋平野……………下 條 信 行

——新発見の鑄型と鏡の紹介をかねて——

福岡藩の 青柳種信の研究 (一)

国学者……………筑 紫 豊

——その年譜的素描——

第二集 一九七八年三月

諸岡遺跡出土朝鮮系無文土器の胎土分析……………清 水 芳 裕

野方中原遺跡の遺物 (一)

——A溝出土の土器——……………柳 田 純 孝

福岡藩の 青柳種信の研究 (二)

国学者……………筑 紫 豊

——拾遺を繞る人脈——

第三集 一九七九年三月

館蔵本「豊前・筑前其他出土考古品図譜」解題……………三 島 格

福岡藩の 青柳種信の研究 (三)

国学者……………筑 紫 豊

——瀛津島防人日記——

第四集 一九八〇年三月

「豊前・筑前其他出土考古品図譜」の関連および追加資料……………三 島 格

人面付銅戈

—人面と鑄かけ—

再発見された「大山文書」

筑前国怡土庄王丸氏について

—福岡市立歴史資料館蔵「王丸文書」の紹介をかねて—

第五集 一九八一年三月

青柳種信の研究 (四)

—竹崎季長勲功絵詞—

青柳種信の考古資料 (二)

—三雲南小路と井原鎗溝に関する資料—

旧下座郡・夜須郡出土の鏡二面

—山田正修氏資料—

第六集 一九八二年三月

山崎文書と箱崎浦

能古島白鬚神社の宮座

福岡市八田出土の鋳型

—資料の観察—

福岡市立歴史資料館が保管する鏡の鉛同位体比

第七集 一九八三年三月

浜崎浦善右衛門のルソン島漂着事件について

近世飯盛神社の年中行事

後 藤 直

安 川 巖

吉 良 国 光

筑 紫 豊

後 藤 直

三 島 格
後 藤 直

高 田 茂 廣

佐 々 木 哲 哉

後 藤 直

馬 淵 久 夫

高 田 茂 廣

佐 々 木 哲 哉

青柳種信の考古資料(二) 後 籾 直

第八集 一九八四年三月

蟹の浦「弘浦」と松田文書 高 田 茂 廣

資料館における 民俗資料収集試論 佐 々 木 哲 哉

青柳種信の考古資料(三)

——金印に関する資料—— 後 籾 直

福岡市能古島の考古資料 塩 屋 勝 利

第九集 一九八五年三月

筑前地方の荒神と荒神祭り 佐 々 木 哲 哉

近世の志賀島

——金印問題を中心にして—— 高 田 茂 廣

金印出土状況の再検討 塩 屋 勝 利

漢・魏・晋代における「蜃夷印」の鈕形について 高 橋 学 而

第一〇集 一九八六年三月

宮崎八幡宮の神幸行事 佐 々 木 哲 哉

筑前蟹の系譜 高 田 茂 廣

文政五年三雲南小路発掘記録の新資料

——青柳種信宛て児玉琢の書状について—— 塩 屋 勝 利

第一集 一九八七年三月

八朔習俗考―博多の八朔節句とその周辺

佐々木 哲 哉

玄界島の流人と文学

高 田 茂 廣

漢代蛮夷印と出土例に関する覚書

塩 屋 勝 利

第二集 一九八八年三月

鳥飼八幡宮の宮座と神饌

佐々木 哲 哉

西海捕鯨遺文

高 田 茂 廣

玄界島の海底陶磁

塩 屋 勝 利

第三集 一九八九年三月

筑前五ヶ浦廻船の諸記録

高 田 茂 廣

中国出土王莽銭に関する覚書

塩 屋 勝 利